

Luncheon Seminar LS-43

ランチョンセミナー LS-43

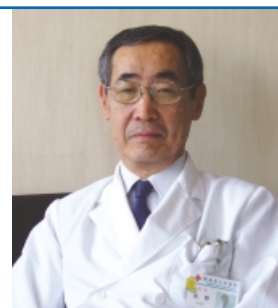
ドライウエイトの考え方

日時 2005年6月25日(土) 12:00~13:00

会場 第15会場 (パシフィコ横浜 ANNEX1)

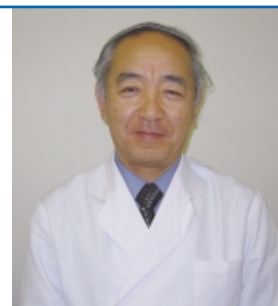
座長

浅野 泰 先生
猿島赤十字病院 院長



演者

田部井 薫 先生
自治医科大学附属
大宮医療センター腎臓科 教授

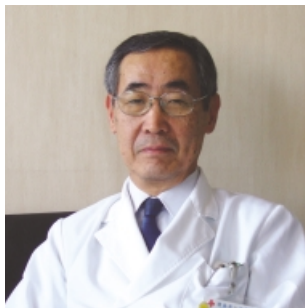


演題

「ブラッドボリューム計の臨床応用」

ドライウエイトの考え方

座長



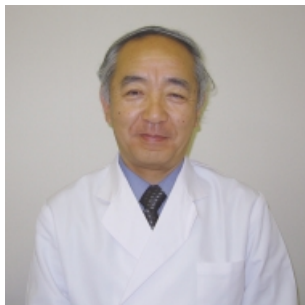
浅野 泰 先生 猿島赤十字病院 院長

昭和40年	東京医科歯科大学卒業	
41年	東京医科歯科大学	第二内科入局
46年	米国カリフォルニア大学	サンフランシスコ校留学
48年	北里大学医学部	内科 講師
51年	自治医科大学	循環器内科 講師
63年	自治医科大学	腎臓内科 教授
平成14年	猿島赤十字病院	院長
17年	自治医科大学	名誉教授

座長のお言葉

透析者の体液管理は極めて重要で、過剰となった体液は短時間の内に透析にて除去しなければならない。そのため透析中に不快な症状を伴った低血圧を患者さんはしばしば経験する。こういった不快な症状が出る前に対応するには、循環血液量の変化をいち早く察知して処置する事である。田部井教授はこのテーマにつき長年研究してきた第一人者であるが、今回、新しいblood volume計の研究を中心に、透析中の循環血液量の変化やdry weightの考え方についてご講演いただく。

演者



田部井 薫 先生 自治医科大附属大宮医療センター腎臓科 教授

昭和50年	群馬大学	医学部卒業、第三内科入局
51年	自治医科大学	内科 ジュニアレジデント
55年	Harvard大学	医学部 Brigham & Women's hospital留学
57年	自治医科大学	循環器内科 助手
62年	自治医科大学	腎臓内科 講師
平成10年	自治医科大学附属大宮医療センター	腎臓科 講師
11年	自治医科大学附属大宮医療センター	腎臓科 助教授
15年	自治医科大学附属大宮医療センター	腎臓科 教授

抄録

「ブラッドボリューム計の臨床応用」

慢性腎不全では、体内に水分蓄積することは避けられません。透析療法は、尿毒症物質の除去と同時に除水により体内水分の適正化を図ることが重要な目的です。しかし、透析間の水分蓄積は時に体重の5%以上にもなります。体重50kgの患者では2.5kgに相当します。循環血液量は体重の7.7%、つまり3.85Lですから、2.5Lもの除水をしたら循環血液量がなくなってしまうこととなります。しかし、実際には血管外から水分が移動し(Plasma refilling:血漿再充満)、循環血液量の変動は最小限に抑制されます。ところが、時には循環血液量が減少しすぎて透析中に血圧が低下し、意識がなくなるような症例に遭遇します。透析医療に携わる医療従事者にとって適正体重(ドライウエイト)の設定は日常臨床で苦慮することです。透析中に循環血液量の変化をリアルタイムで見ることが、血圧の低下を予想し、早めに対処することによりより良い透析を行う上で極めて重要なことです。このランチョンセミナーでは、透析による循環血液量の変化についてわかりやすく解説し、皆様の日常臨床のお役に立てることを願っております。